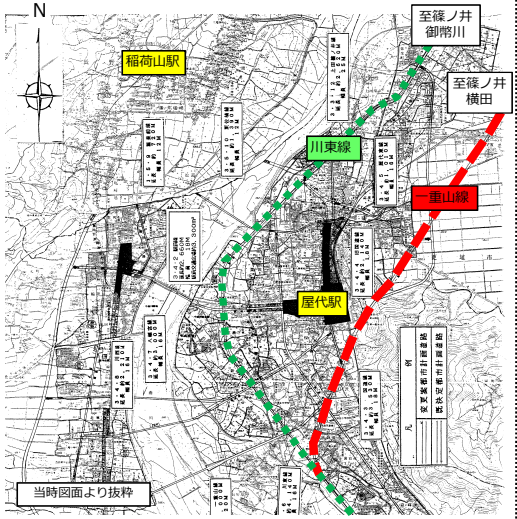
都市計画道路「一重山線」について

説明会資料No.1

令和3年2月15日・17日

これまでの変遷

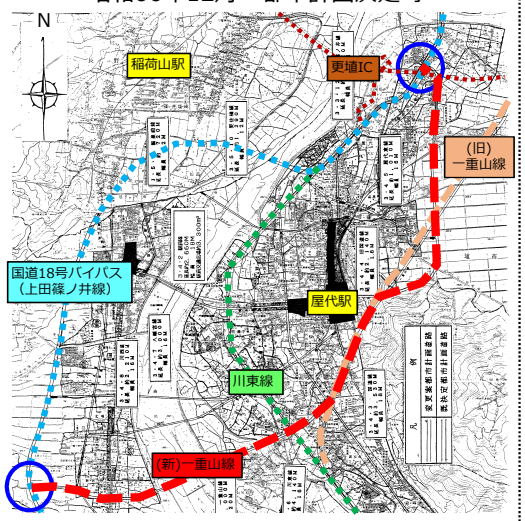
昭和40年 3月　都市計画決定時



長野方面から流入に対し<u>バイパス機能(中心市街地を避け渋滞軽減を図る)を持った2本の幹線道路(一重山線・川東線)を計画</u>

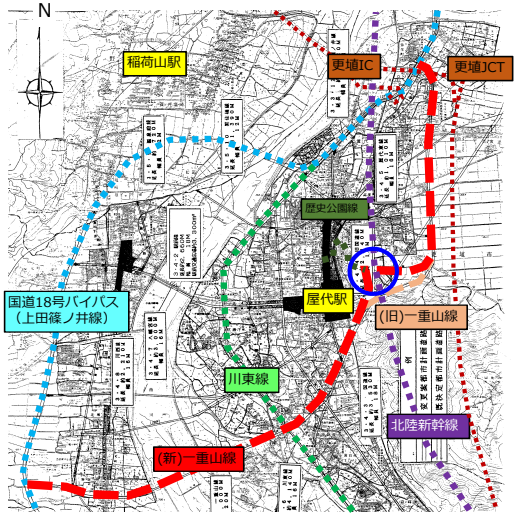
※「川東線」：合併後「千曲線」へ名称変更)

昭和60年12月　都市計画決定時

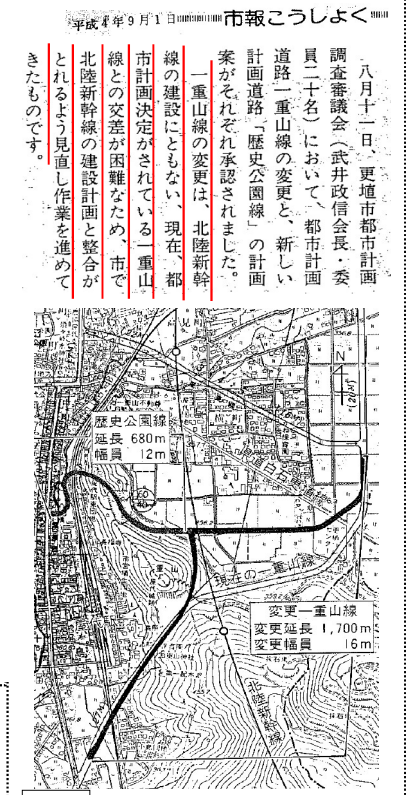


交通体系が大きく変化する<u>国道18号バイパス・更埴IC</u>など新たな計画がされたことから、一重山線については路線の変更及び延長し<u>東西を結ぶ環状道路</u>として位置付け

平成4年10月　都市計画決定時



北陸新幹線建設計画に伴い、一重山線との交差部の整合が取れるよう一部路線を変更



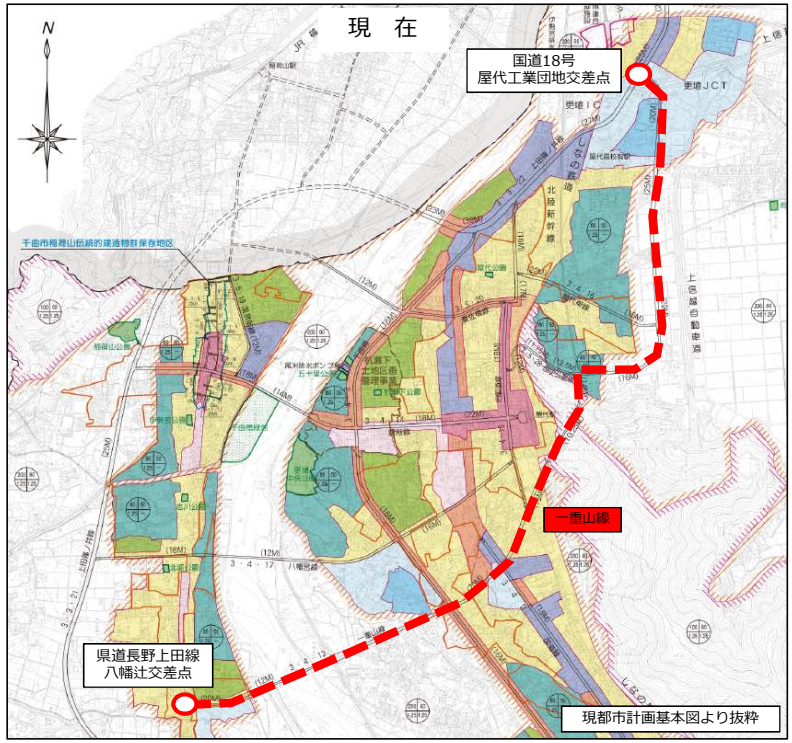
平成4年9月1日　市報こうしよく

八月十一日、更埴市都市計画調査審議会（武井政信会長・委員二十名）において、都市計画道路一重山線の変更と、新しい計画道路「歴史公園線」の計画案がそれぞれ承認されました。

一重山線の変更は、北陸新幹線の建設にともない、現在、都市計画決定がされている一重山線との交差が困難なため、市で北陸新幹線の建設計画と整合がとれるよう見直し作業を進めてきたものです。

参考　平成4年9月号　市報こうしょくより

現　在



一重山線の一貫した位置付け

時代とともに位置・形が変化してきた都市計画道路「一重山線」

その一方

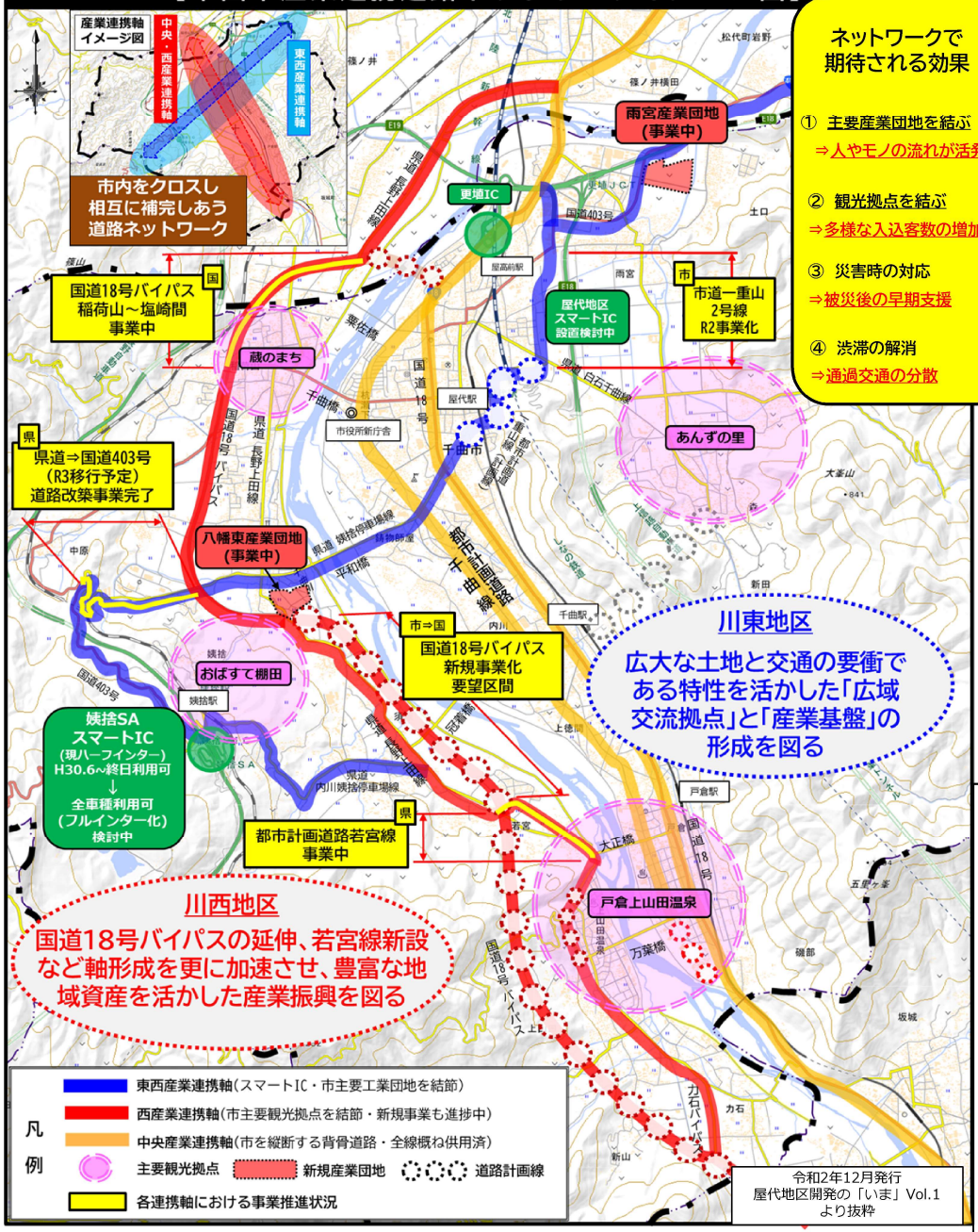
都市計画決定当時より、<u>市内を東西に結び流入交通を分散させるバイパス機能</u>を持った<u>市の重要な幹線道路</u>として位置付けは変わっていない。

産業連携道路ネットワーク構想と市が進める道路整備について

説明会資料№1
令和3年2月15日・17日

産業連携道路ネットワークとは

【千曲市産業連携道路ネットワークイメージ図】



令和2年12月発行
屋代地区開発の「いま」Vol.1
より抜粋

ネットワークで期待される効果

① 主要産業団地を結ぶ
⇒人やモノの流れが活発化

② 観光拠点を結ぶ
⇒多様な入込客数の増加

③ 災害時の対応
⇒被災後の早期支援

④ 渋滞の解消
⇒通過交通の分散

産業連携道路ネットワークの目的

「今ある」・「新しく生まれる」産業拠点を道路でつなげることにより
そこに集まる人・モノ・文化を市内全域に波及・循環させる

イメージ　点 → 線 → 面
【拠点】同士を　【道路】でつなげ　【市内】に広げていく

ネットワーク整備方針について

国・県・市
ネットワークに位置付けられた主要幹線は
「国」・「県」・「市」が役割・連携を図りながら整備を実施

現在の状況

市
市内を南北に結ぶ都市計画道路「千曲線」が開通

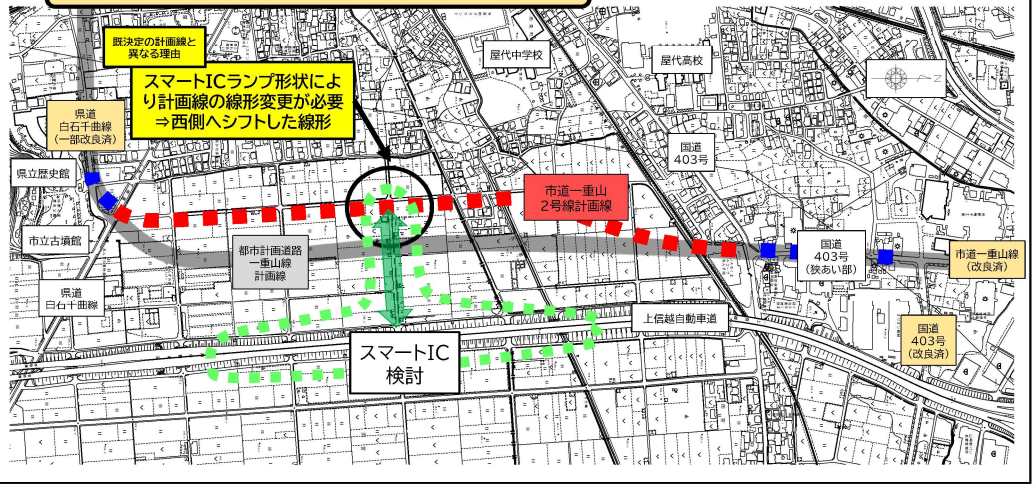
国・県
国道18号バイパス・
都市計画道路若宮線・
力石バイパス（供用中）など
川西地区での整備が進捗

民間
雨宮・八幡東地区に
新たな大規模産業団地が形成

市
これらの状況を勘案し、今後市は最優先に整備を進める路線として
市内を東西に結ぶ都市計画道路「一重山線」とすることに決定

今年度より「一重山線」の一部である
市道一重山2号線の整備に着手してまいります

市道一重山2号線の位置及び整備計画範囲



「市道一重山2号線道路改良事業」に伴う測量設計の実施について

日頃から市の建設行政にご理解、ご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。
この度、市道一重山2号線道路改良事業を進めるにあたり、現地の測量ならびに道路設計を実施いたします。
測量および設計を実施することにより、道路の詳細な形状等が決定いたします。設計が完了しましたら、皆様に詳細をご説明したいと考えています。
つきましては、皆様の土地への立ち入りのご了承をお願いいたします。
また、測量・設計に際し、不明な点等について皆さまにお聞きすることもあるかと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

記

1. 業務名
令和2年度　社会資本整備総合交付金事業　市道一重山2号線測量設計業務委託

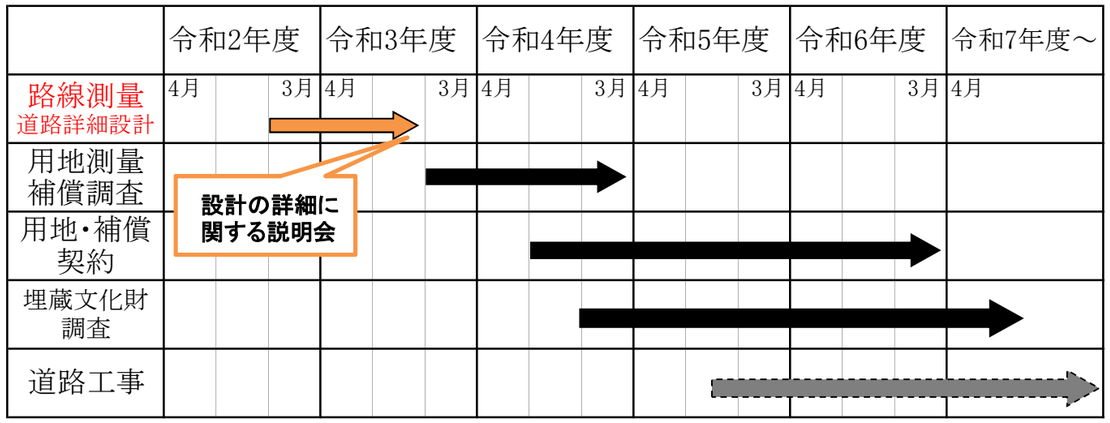
2. 業務場所
千曲市　大字　屋代・雨宮　（裏面のとおり）

3. 業務概要
・ 路線測量　L=1.24km　（市道一重山2号線）
・ 道路詳細設計　L=1.24km　（市道一重山2号線）
・ 接続道路（国道403号、県道白石千曲線等）測量　L=約0.8km
※接続道路ついては、道路の管理者である長野県千曲建設事務所と協議し、進めていきます。

4. 発注者
千曲市役所建設課　電話026-273-1111　監督員　主査　越　健

5. 受注者
黒田整地開発㈱千曲営業所　千曲市大字桜堂484番地2
管理技術者　牧　明彦　電話　026－272－8558
※測量の準備が整い次第、作業を開始いたします。
作業中は、腕章・身分証を携帯しております。

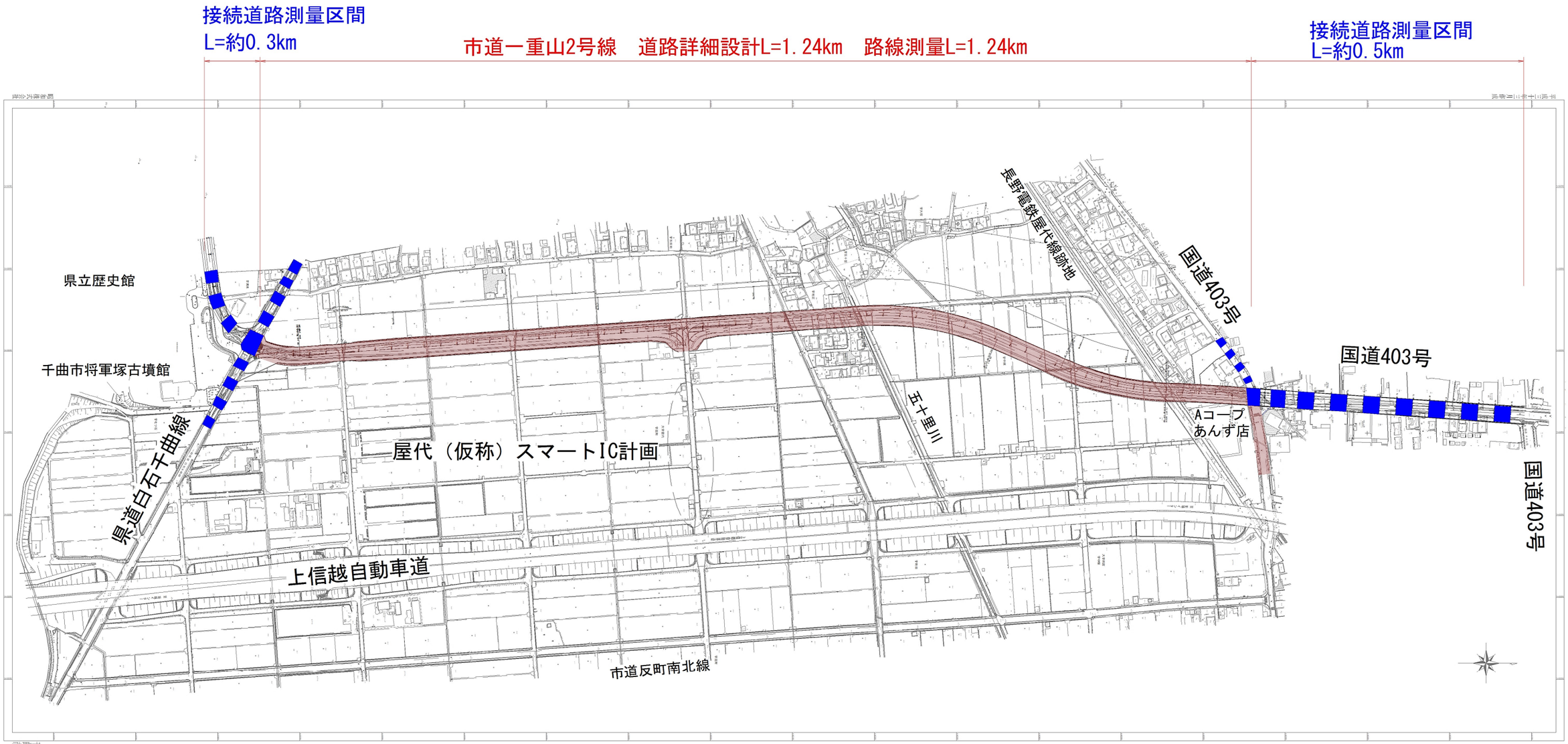
6. スケジュール



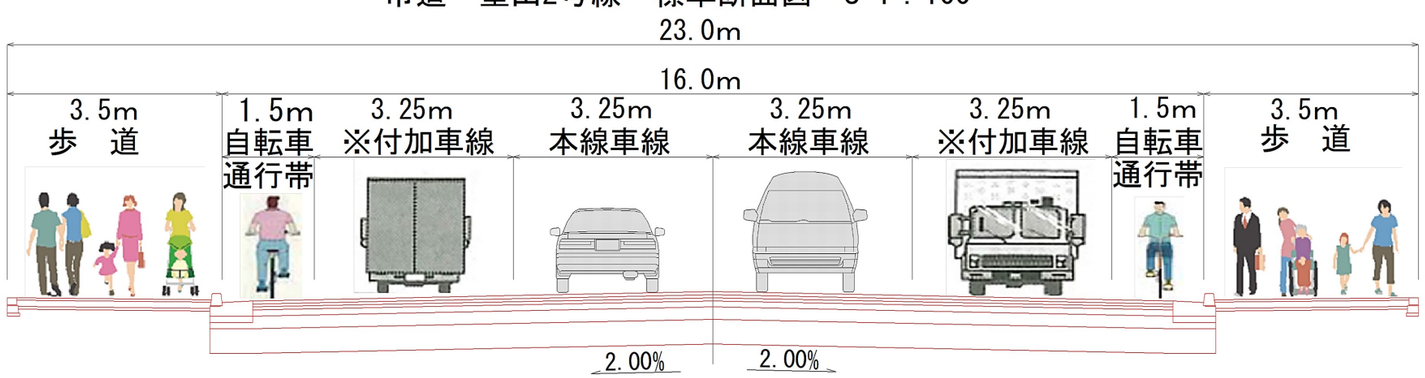
※国の交付金事業で進めているため、今後、上記スケジュールに変更が生じる場合も想定されます。

メモ欄

市道一重山2号線　全体平面図



市道一重山2号線　標準断面図　S=1：100



※付加車線：沿道施設、スマートIC等の出入車両を円滑に誘導し、本線への影響を軽減させることを目的

◎ 屋代地区開発の関係者の動きについて

進出企業の動き

これまでの商業系企業に加え工業系企業も含め4社ほどが進出意欲を示していますが、社名は企業側の要望もあり、決定までは公表できません。
企業側では要となる区画内道路、周辺の基盤整備の充実度を重要視しています。

土地所有者の動き

平成29年5月地権者主体の「屋代地区土地区画整理組合設立準備会」が発足し、組合施行による約35ha一括での事業成立に向け、市による支援を受けながら役員会・地権者報告会を定期的に開催しています。

◎ 屋代地区開発の課題について

「課　題」		「対　応」
農地：優良農地として保全してきた土地の商工業系への利用転換を図る	→	農村産業法による産業導入地区に位置づけ規制の除外や土地利用の転換を図る
都市計画：市街地への編入を図る	→	千曲市都市計画マスタープランへ位置づける ※マスタープラン：基本的な方針
企業ニーズ：基盤整備を図ることで企業進出を促進させる	→	市道一重山2号線を始めとした周辺道路整備及び国・県への事業化に向けた協議
スマートIC：広域交流拠点の機能強化、移動の円滑化、物流の効率化を図る	→	国を始めとした関係機関との協議を重ね、早期事業化を図る
埋蔵文化財：埋蔵文化財の保護と開発との調整を図る	→	試掘により地下の状況を把握し、埋蔵文化財への影響の軽減に努める

◎　屋代地区開発のこれまでの調査について

これまで課題の解決に向け「周辺基盤の事前調査」「土地区画整理の事業化」「スマートIC設計」など調査を進め、多くの時間と費用（平成28年度～令和元年度決算額：約1.5億円）をかけてきました。

◎ 今後の方針について

少子高齢化や経済情勢など社会の変化に対応できるよう、千曲市全域や広域での活性化につながる新たなまちづくりに取り組んでまいります。
まず、安全・安心や生活の質の向上、経済活動を促進する効果がある道路をはじめとした基盤整備を計画的に進めてまいります。
本紙をはじめ、今後もホームページ等で市民の皆さんへ情報提供してまいります。

←二次元コード読み取り
詳しくは地域開発推進室のホームページをご覧ください

～この配布物に関するご質問・ご意見は～
千曲市役所 建設部 地域開発推進室
室長：稲玉修治　係長：篠原哲哉　係員：伊藤孝雄
Email:kaisui@city.chikuma.lg.jp
TEL:026-273-1111（内線3243・3244）

令和2年12月

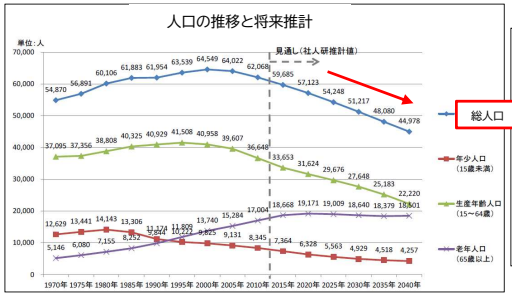
ひと・モノ・文化が交流し　にぎわいあふれる　まちづくりを目指して

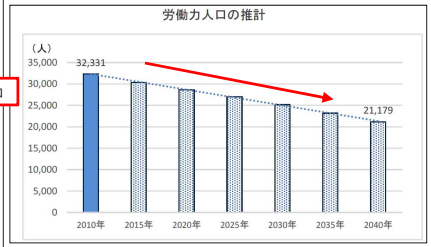
屋代地区開発の「いま」 Vol.1

（広域交流拠点整備）

はじめに

千曲市の総人口は、千曲市人口ビジョン（H28.2）の人口推計によると、令和22年（2040年）44,978 人と5 万人を大きく割り込むことが予測されており、また働く人（労働力人口）も大きく減少するとされています。





出典：千曲市人口ビジョン

人口減少や地域経済の縮小を食い止め、より高い市民サービスを維持していくには、自ら稼ぐ力（自主財源の確保）がますます重要となります。
市はこの課題を解決するため、第二次千曲市総合計画において「千曲の魅力で創生する賑わい（にぎわい）と活力あるまち」を目標に掲げ、屋代地区及びその周辺を広域交流拠点として位置づけるとともに、次にあげるまちづくりを目指しています。

① 「交通の要衝」という適地を活かした産業経済基盤を形成する。
※要衝：大切な地点

② 地域住民や広域からの人々が集い、楽しみ、賑わい（にぎわい）のある新たな活力の場（＝広域交流拠点）を創出する。

③ 市内の産業・観光拠点を道路ネットワークで結ぶ「千曲市産業連携道路ネットワーク」構築を図る。

本紙では、この広域交流拠点整備のこれまでの経過や検討状況を市民の皆さんに報告いたします。

（内容は令和2年12月現在のものです）

（次のページ）

①「交通の要衝」という適地を活かした産業経済基盤を形成する

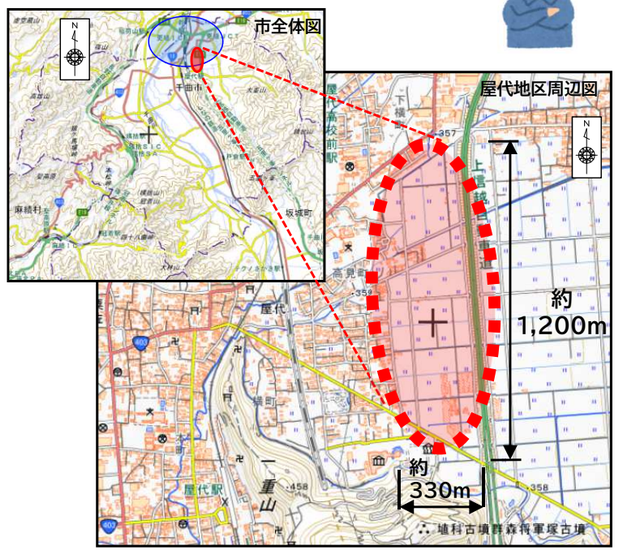
この地域が持っている特性は･･･

1.高速道路のジャンクションやインターチェンジ、幹線道路が結節する県内有数の「交通の要衝」

2.精密機器製造業･運送業など市内主要産業が集積し「工業団地を形成」

当地域は他には無い「地の利」があることからここを活かした「千曲市全域の産業振興」を図ります。

どうして屋代地区で開発をするのですか？



② 地域住民や広域からの人々が集い、楽しみ、賑わいのある新たな活力の場（=広域交流拠点）を創出する

どんな場所になりますか？

地区のコンセプトは

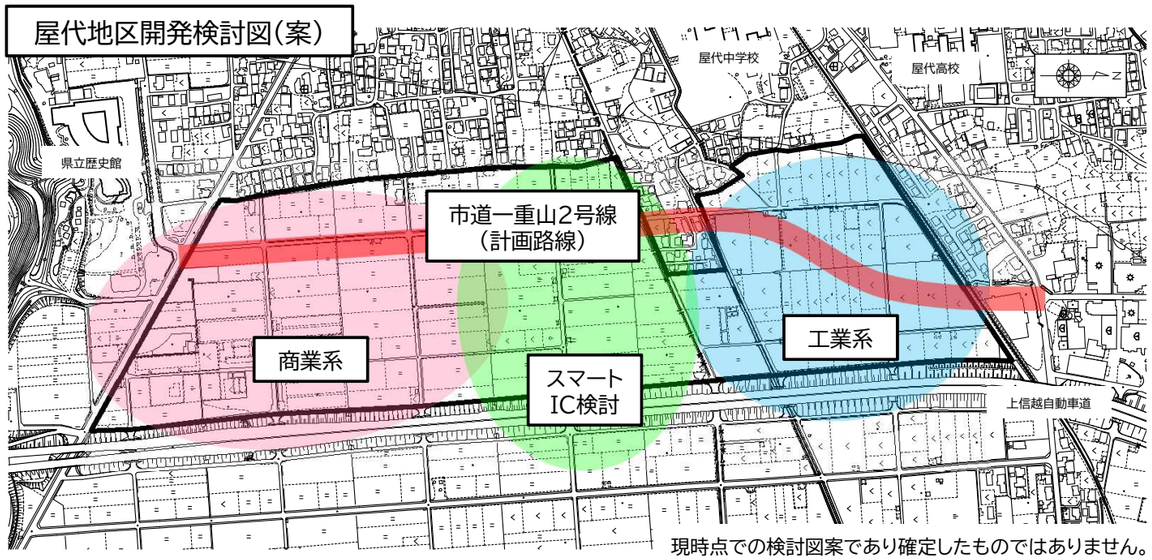
「広域交流拠点」と「産業基盤の形成」

商業系（人が集う施設）他 ＋ 工業系（魅せる工場）他

新たな産業基盤の形成により、就業機会が確保され、働く人が地域で住み続けられることで持続可能な地域コミュニティーにつながります。

※こうした市の考えに理解を示した複数の企業が進出への関心を寄せています。

屋代地区開発検討図（案）



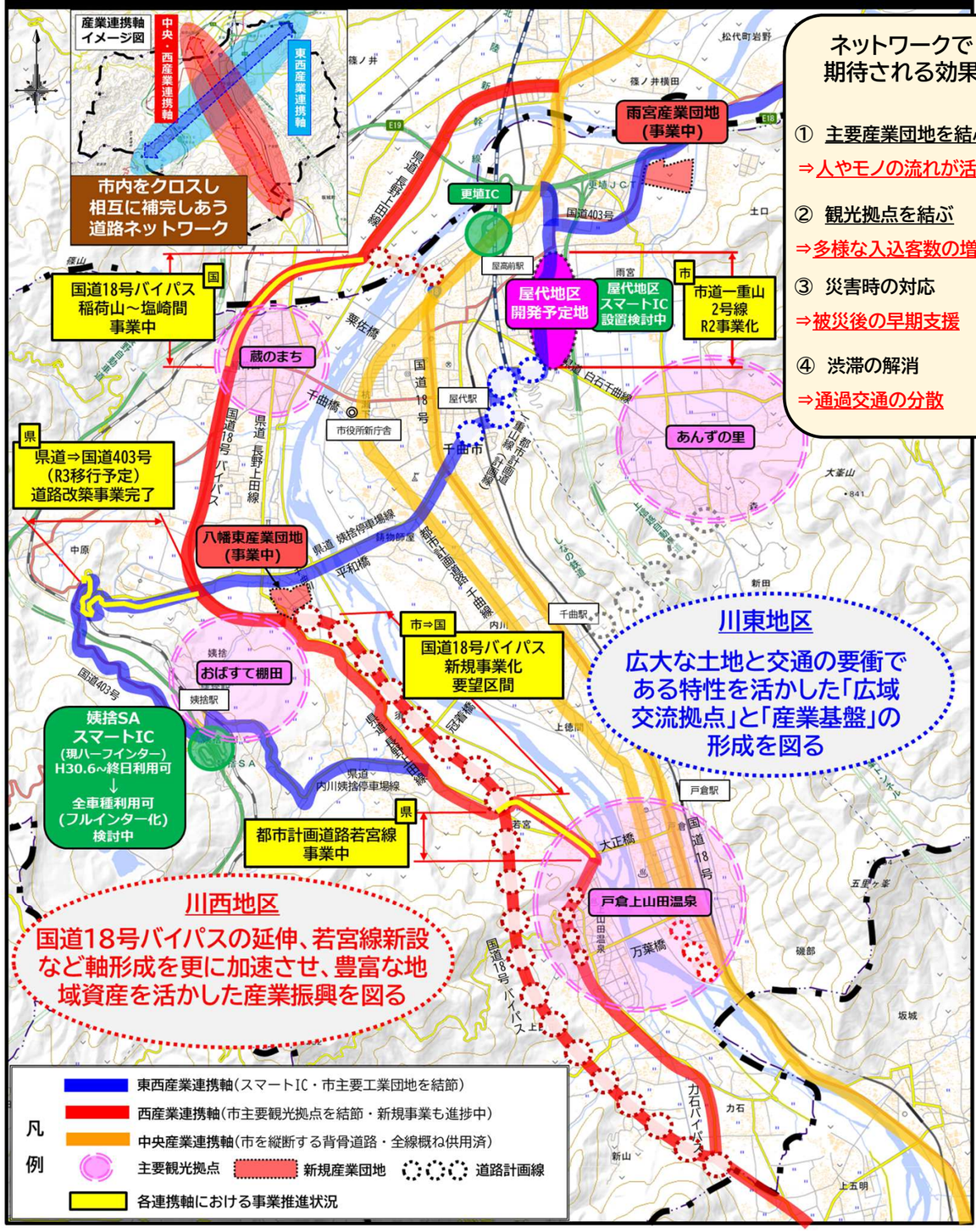
現時点での検討図案であり確定したものではありません。

③ 市内の産業拠点を道路ネットワークで結ぶ「千曲市産業連携道路ネットワーク」構築を図る

便利になるのはいいけど交通渋滞が心配

屋代地区における広域交流拠点･産業基盤形成とともに、そこに集まる人やモノや文化を市内全域に波及･循環させるために産業連携道路ネットワークの構築を図り、今後国･県と共に積極的に整備を促進していきます。

【千曲市産業連携道路ネットワークイメージ図】



ネットワークで期待される効果

① 主要産業団地を結ぶ
⇒人やモノの流れが活発化

② 観光拠点を結ぶ
⇒多様な入込客数の増加

③ 災害時の対応
⇒被災後の早期支援

④ 渋滞の解消
⇒通過交通の分散

（次のページ）